

枚方市男女共同参画に関する 市民アンケート調査結果報告書

令和2（2020）年3月

枚 方 市

目 次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
(1)	一般	1
(2)	小学生から大学生	1
3	回収状況	2
4	報告書の見方	2
II	調査結果の概要	3
1	一般調査	3
2	小学生から大学生調査	11
III	調査結果	17
1	一般調査	17
(1)	回答者属性	17
(2)	男女の平等感と役割分担について	21
(3)	家庭生活（子育て・介護）について	47
(4)	職業生活について	63
(5)	仕事と家庭などの関わりについて	72
(6)	暴力・人権について	86
(7)	自由意見	154
2	小学生から大学生調査	166
(1)	回答者属性	166
(2)	家庭生活について	167
(3)	性別による役割分担の考えについて	171
(4)	暴力・人権について	195
(5)	将来について	231
(6)	自由意見	233
IV	調査票	235
1	一般	235
2	小学生	251
3	中学生	255
4	高校生	261
5	大学生	269

I 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、第3次枚方市男女共同参画計画（平成28（2016）年度～令和7（2025）年度）の中間見直し及びアクションプログラム後期（令和3（2021）年度～令和7（2025）年度）の策定に向けて、市民の男女共同参画に関する意識や現状を把握するために実施しました。

2 調査対象

（1）一般

- ①調査地域：枚方市全域
- ②調査対象：市内在住の満20歳以上の男女
- ③標本数：2,000人
- ④有効回収数：827人（回収率41.4%）
- ⑤抽出方法：住民基本台帳に基づき、対象者を20歳代、30歳代、40歳代、50歳代、60歳以上の5区分に分け、それぞれ400人ずつとしました。また、各区分ごとの地域（市内を10地区に分類）・男女比による配分は人口比により按分し、無作為抽出しました。
- ⑥調査方法：郵送法（調査票の送付と回収及び葉書による督促状1回の送付）
- ⑦調査期間：令和元（2019）年11月8日から11月30日
- ⑧調査項目：
 - ア 回答者の属性
 - イ 男女の平等感と役割分担について
 - ウ 家庭生活（子育て・介護）について
 - エ 職業生活について
 - オ 仕事と家庭などの関わりについて
 - カ 暴力・人権について

（2）小学生から大学生

- ①調査地域：枚方市全域
- ②調査対象：市立小学校に通う小学5年生／市立中学校に通う中学2年生
市内の高校に通う学生／市内の大学に通う学生
- ③標本数・
有効回収数：小学生461人／中学生486人／高校生521人／大学生441人
- ④調査方法：学校を通じた調査票の配布・回収
小学校6校、中学校3校、高校5校、大学3校
- ⑤調査期間：令和元（2019）年10月から11月

- ⑥調査項目：ア 回答者の属性
 イ 家庭生活について
 ウ 性別による役割分担の考えについて
 エ 暴力・人権について
 オ 将来について

3 回収状況

(1) 一般

	標本数	有効回収数	有効回答率
全体	2,000 人	827 人	41.4%
女性	1,074 人	481 人	44.8%
男性	926 人	320 人	34.6%
女性／男性では答えられない	－	2 人	－
答えない	－	9 人	－
無回答	－	15 人	－

(2) 小学生・中学生・高校生・大学生

		全体	女子	男子	女子／男子 では答え られない	答えない	無回答
有効 標本 回収 数	小学生	461	197	240	4	14	6
	中学生	486	227	226	4	22	7
	高校生	521	254	224	7	17	19
	大学生	441	254	166	3	10	8

4 報告書の見方

- ・回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してあります。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合があります。
- ・複数回答が可能な設問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合があります。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがあります。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法です。
- ・調査表内で経年比較をしている箇所は、本市が平成 26（2014）年に行った「枚方市男女共同参画に関する市民アンケート調査」の結果と比較しています（項目によっては、平成 24（2012）年、平成 22（2010）年の調査結果とも比較しています）。

Ⅱ 調査結果の概要

1 一般調査

(1) 回答者の属性

① 性別

a あなたの性別は。(○は1つ) (P. 17)

「女性」が58.2%で最も高く、次いで「男性」が38.7%、「答えない」が1.1%と続いています(図表Ⅲ-1-1-1)。

② 年齢

b あなたの年齢は。(記入日の時点で)(○は1つ) (P. 17)

「50～59歳」が22.6%で最も高く、次いで「40～49歳」が18.4%、「30～39歳」が18.3%と続いています(図表Ⅲ-1-1-2)。

③ 結婚しているか

c あなたは結婚(事実婚またはパートナーと同居)していますか。(○は1つ) (P. 18)

「結婚している」が67.4%で最も高く、次いで「結婚していない」が22.0%、「結婚したが、離婚または死別した」が9.2%と続いています(図表Ⅲ-1-1-3)。

④ 回答者・配偶者の職業

d あなたの仕事は。配偶者がおられる方は配偶者の欄も記入してください。(○は1つずつ)
(回答者の職業 P. 18、配偶者の職業 P. 19)

回答者の職業については、「正規雇用で働いている」が38.1%で最も高く、次いで「非正規雇用で働いている(契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど)」が22.5%、「家事専業」が14.6%と続いています。

また、配偶者の職業については、「正規雇用で働いている」が40.8%で最も高く、次いで「非正規雇用で働いている(契約社員・派遣社員・パートタイマー・アルバイトなど)」が20.5%、「家事専業」が14.2%と続いています(図表Ⅲ-1-1-4、図表Ⅲ-1-1-5)。

⑤ 子どもがいるか

e あなたに子どもはいますか。(別居を含む)(○は1つ) (P. 19)

「いる」が67.5%、「いない」が30.6%となっています(図表Ⅲ-1-1-6)。

⑥ 世帯構成

f あなたの現在の世帯構成は、次のどれですか。(○は1つ) (P. 20)

「親と子の二世帯世帯」が54.8%で最も高く、次いで「夫婦(パートナー)のみの世帯」が23.8%、「1人世帯」が10.8%と続いています(図表Ⅲ-1-1-7)。

(2) 男女の平等感と役割分担について

① 男女がどの程度平等になっていると思うか

問1 次の(1)～(8)の分野で、あなたは、男女がどの程度平等になっていると思いますか。それぞれあてはまる番号に○をつけてください。(○は各項目に1つ) (P. 21)

男女の平等感について、全体で見ると『平等である』が多かったのは「学校教育の場」で48.4%、「家庭生活」で39.7%となっています。どの場でも『男性優遇』が『女性優遇』より多くなっていますが、その中でも特に『男性優遇』だと考えられている場合は、「政治の場」で『男性優遇派(『男性が優遇されている』と『どちらかといえば男性が優遇されている』の合計)』76.4%、『女性優遇派(『女性が優遇されている』と『どちらかといえば女性が優遇されている』の合計)』2.0%、「社会通念・慣習・しきたりなど」で『男性優遇派』75.3%、『女性優遇派』3.8%となり、男女での大きな差が見られます(図表Ⅲ-1-2-1、図表Ⅲ-1-2-2、図表Ⅲ-1-2-4、図表Ⅲ-1-2-6、図表Ⅲ-1-2-8、図表Ⅲ-1-2-10、図表Ⅲ-1-2-12、図表Ⅲ-1-2-14、図表Ⅲ-1-2-16)。

② 性別による役割分担の考えについて

問2 「男は仕事、女は家庭」という男女の役割分担について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ) (P. 30)

男女の役割分担について、全体で見ると『同感しない派(『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計)』は62.2%、『同感する派(『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計)』は31.9%と『同感しない派』が大きく上回っています(図表Ⅲ-1-2-18)。

③ 性別による役割分担を支持する理由

(問2で「1. 同感する」「2. どちらかといえば同感する」とお答えの方に)

問2-1 そう思う主な理由は何ですか。(○は1つ) (P. 32)

性別による役割分担を支持する理由については、男女とも「男性は仕事、女性は家事・育児に向いているから」(女性27.4%、男性26.4%)が最も高く、次いで女性では「子どもの頃から、そうした教育をされているから」と「女性は仕事を持っても不利な条件におかれているから」がともに15.6%、男性では「夫婦の役割をはっきりと分ける方が仕事も家庭もうまくいくから」が19.0%となっています(図表Ⅲ-1-2-21)。

④ 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について

問3 「子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい」という考え方について、あなたはどのように思いますか。(○は1つ) (P. 34)

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいという考え方について、全体で見ると『同感する派(『同感する』と『どちらかといえば同感する』の合計)』は58.7%、『同感しない派(『同感しない』と『どちらかといえば同感しない』の合計)』は34.5%と『同感する派』が上回っています(図表Ⅲ-1-2-23)。

⑤ 子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由

(問3で「1. 同感する」「2. どちらかといえば同感する」とお答えの方に)

問3-1 そう思う主な理由は何ですか。(○は1つ) (P. 36)

子どもが小さいうちは母親が仕事をしないで育児に専念したほうがよいと思う理由については、男女とも「子どもの健全な成長に必要だから」(女性 45.8%、男性 54.5%)が最も高く、次いで女性では「自分自身がそうした、そうされたから」が20.6%、男性では「自分自身がそうした、そうされたから」と「小さい子どもを人に預けるのは子どもがかわいそうだから」がともに12.0%となっています(図表Ⅲ-1-2-26)。

⑥ 法律等の認知度

問4 次の(1)～(13)の言葉について、それぞれあてはまる番号に○をつけてください。(○は各項目に1つ) (P. 39)

法律等の認知度について、全体で見ると『見たり聞いたりしたことがある』のは、「男女雇用機会均等法」が91.1%で最も高く、次いで「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)」が89.6%、「育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律(育児・介護休業法)」が83.7%と続いています。『知らない』が高いのは「枚方市男女共生フロア・ウィル」88.0%、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)」80.9%、「枚方市男女共同参画推進条例」77.1%となっています(図表Ⅲ-1-2-28、図表Ⅲ-1-2-29、図表Ⅲ-1-2-31、図表Ⅲ-1-2-33、図表Ⅲ-1-2-35、図表Ⅲ-1-2-37、図表Ⅲ-1-2-39、図表Ⅲ-1-2-41)。

(3) 家庭生活(子育て・介護)について

① 子育てへのかかわりは十分であったか

問5 あなた自身の子どもが幼少期の頃、あなたの子育てへのかかわりは十分だ(であった)と思いますか。(○は1つ) (P. 47)

あなた自身の子育てのかかわりについて、『十分である派(『十分である』と『ある程度は十分である』の合計)』は女性86.0%、男性58.6%となっています。『十分である派』を性年代別で見ると、女性は回答数の少ない20歳代を除き、いずれの年代も80.0%を超えていますが(83.6%(70歳以上)～90.5%(60歳代))、男性は47.8%(70歳以上)～71.0%(40歳代)と男女での差が見られます(図表Ⅲ-1-3-1)。

② 子育てへのかかわりが十分でなかった理由

問5-1 あなた自身の子育ての関わりが十分でないのは何が原因であると思いますか。(○は2つまで) (P. 49)

子育てへのかかわりが十分でなかった理由について、男女とも「仕事が忙し過ぎるため」(女性65.2%、男性71.9%)が最も高く、女性では次いで「育児休業制度が不十分または利用しにくい」と「子育てに関する知識や情報が乏しいため」(いずれも23.9%)となっています。男性は、「育児休業制度が不十分または利用しにくい」(11.2%)に次いで、「配偶者(パートナー)の方が育児に向いているため」(10.1%)となっています。(図表Ⅲ-1-3-3)。

③ 配偶者（パートナー）の子育てへのかかわりは十分であったか

問 6 配偶者（パートナー）の子育てへのかかわりは十分だ（であった）と思いますか。
（○は 1 つ）（P. 51）

配偶者（パートナー）の子育てのかかわりについて、『十分である派（『十分である』と『ある程度は十分である』の合計）』は女性 50.3%、男性 89.3%となっています。『十分である派』を性年代別で見ると、20 歳代と 70 歳以上を除き、女性（33.3%（60 歳代）～61.5%（40 歳代））と男性（87.9%（30 歳代）～98.3%（50 歳代））では 30 ポイント以上の差が見られます（図表Ⅲ-1-3-5）。

④ 配偶者（パートナー）の子育てへのかかわりが十分でなかった理由

問 6 - 1 配偶者（パートナー）の子育ての関わりが十分でないのは何が原因であると思いますか。（○は 2 つまで）（P. 53）

配偶者（パートナー）の子育てへのかかわりが十分でなかった理由について、女性は「（配偶者は）仕事が忙しすぎるため」（49.3%）に次いで、「（配偶者は）趣味や自分の個人的な楽しみを大切にしたいため」（26.0%）、「（配偶者は）子どものことや家庭のことにあまり関心がないため」（21.9%）となっています。男性は回答数が 11 人と少人数でしたが、「（配偶者は）仕事が忙しすぎるため」（72.7%）、「（配偶者は）趣味や自分の個人的な楽しみを大切にしたいため」（18.2%）となっています（図表Ⅲ-1-3-7）。

⑤ 男性の育児休業取得をどう思うか

問 7 育児を行うために、法律に基づき育児休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が育児休業を取得することについてどう思いますか。（○は 1 つ）（P. 55）

男性の育児休業取得について、『取得した方がよい派（『取得した方がよい』と『どちらかというど取得した方がよい』の合計）』は女性 69.5%、男性 67.6%と、男女で大きな差は見られません（図表Ⅲ-1-3-9）。

⑥ 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由

問 7 - 1 男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。（○は 2 つまで）（P. 57）

男性が育児休業を取得しない方がよいと思う理由については、女性では「仕事が忙しいため」が 36.4%で最も高く、男性では「育児休業等の制度が不十分または利用しにくい」（42.4%）、次いで「収入が減るため」（27.3%）が高くなっています（図表Ⅲ-1-3-11）。

⑦ 男性の介護休業取得をどう思うか

問 8 介護を行うために、法律に基づき介護休業を取得できる制度があります。この制度を活用して、男性が介護休業を取得することについてどう思いますか。（○は 1 つ）（P. 59）

男性の介護休業取得について、『取得した方がよい派（『取得した方がよい』と『どちらかというど取得した方がよい』の合計）』は女性 80.7%、男性 75.6%と、男女で大きな差は見られません（図表Ⅲ-1-3-13）。

⑧ 男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由

問 8-1 男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由は何ですか。(○は2つまで) (P. 61)

男性が介護休業を取得しない方がよいと思う理由については、女性・男性いずれも「収入が減るため」が女性 45.0%、男性 55.6%で最も高くなっています(図表Ⅲ-1-3-15)。

(4) 職業生活について

① 職場の男女差別

問 9 あなたの今の職場、あるいは、元職場では、次の(1)～(9)について、性別によって差がある(あった)と思いますか。(○は各項目に1つ) (P. 63)

職場での男女差について、全体で見ると『男性が優遇されている』と『女性が優遇されている』の差が大きかったものは「管理職への登用」(女性優遇 3.1%、男性優遇 50.7%)、「昇進昇格」(女性優遇 2.3%、男性優遇 48.3%)となっています。『平等である』は「研修(機会・内容)」(64.6%)、「募集・採用」(52.4%)で割合が高くなりました。「休暇の取得しやすさ」(女性優遇 31.0%、男性優遇 4.8%)では女性優遇が男性優遇より割合が高くなっています(図表Ⅲ-1-4-1、図表Ⅲ-1-4-2、図表Ⅲ-1-4-4、図表Ⅲ-1-4-6、図表Ⅲ-1-4-8、図表Ⅲ-1-4-10)。

② 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと

問 10 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも) (P. 69)

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについては、全体で見ると「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」が71.0%で最も高く、次いで「保育所や留守家庭児童会室などの育児環境を充実し、だれもが利用できるようにする」が66.4%、「男女で家事労働(育児・介護含む)を平等に分担する」が59.4%と続いており、男女別でみると、女性・男性いずれも「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」(女性75.5%、男性65.3%)の割合が最も高くなっています。(図表Ⅲ-1-4-12)。

(5) 仕事と家庭などの関わりについて

① 「仕事」「家庭生活」「自分の活動」について

問 11 あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活(家事・子育て・介護)」、「(趣味やボランティアなどの)自分の活動」のうち何を優先しますか。あなたの希望と現状に近いものをそれぞれについてお答えください。(○は1つずつ) (P. 72)

「仕事」「家庭生活」「自分の活動」の希望については、男女とも「「仕事」と「家庭生活」と「自分の活動」をすべて大切にしたい」(女性30.8%、男性26.9%)が最も高く、次いで女性は「「家庭生活」と「自分の活動」を優先したい」(18.9%)、男性は「「仕事」と「家庭生活」を優先したい」(22.8%)となっています。

また、「仕事」「家庭生活」「自分の活動」の現状については、女性では「「家庭生活」が中心になっている」が24.9%で最も高く、男性では「「仕事」が中心になっている」が43.4%で最も高くなっています(図表Ⅲ-1-5-1、図表Ⅲ-1-5-4)。

② 仕事と家事に費やす時間

問 12 あなたが1日のうちで仕事と家事に費やす平均時間はどの程度ですか。(○は1つずつ)
(P. 78)

仕事 (ア) 平日

仕事に費やす時間について、平日では「8 時間以上 (10 時間以上 12 時間未満、12 時間以上含む)」が女性 34.6%、男性 57.8%となっており、女性・男性いずれも「8 時間以上 10 時間未満」の割合が最も高くなっています (図表Ⅲ-1-5-7)。

仕事 (イ) 休日

仕事に費やす平均時間について、休日では、女性・男性いずれも「ほとんどない」(女性 49.7%、男性 53.1%) の割合が最も高くなっています (図表Ⅲ-1-5-9)。

家事 (ア) 平日

家事に費やす時間について、平日では「30 分未満 (ほとんどない含む)」が女性 11.0%、男性 50.9%と大きな差が見られます。女性は「3 時間以上 4 時間未満」が 16.4%で最も高く、男性は「ほとんどない」が 25.9%で最も高くなっています (図表Ⅲ-1-5-11)。

家事 (イ) 休日

家事に費やす時間について、休日では女性は「5 時間以上」が 19.3%で最も多く、男性は「1 時間以上 2 時間未満」が 20.9%で最も高くなっています (図表Ⅲ-1-5-14)。

(6) 暴力・人権について

① 恋人同士の間でのDVだと思ふ行為

問 13 恋人同士の間で次の (1) ～ (6) のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。(○は各項目に1つ) (P. 86)

恋人同士の間でのDVだと思ふ行為について、「⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性 87.9%、男性 86.3%で最も高く、「①相手が自分の言うとおりにしなければ、不機嫌になる」が『暴力に当たるとは思わない』のは女性 35.3%、男性 37.8%で最も高くなっています (図表Ⅲ-1-6-1、図表Ⅲ-1-6-2、図表Ⅲ-1-6-5、図表Ⅲ-1-6-8、図表Ⅲ-1-6-11、図表Ⅲ-1-6-14、図表Ⅲ-1-6-17)。

② 交際相手からのDVの経験

問 14 あなたは、交際相手から、次の (1) ～ (3) のようなことをされたことがありますか。(○は各項目に1つ) (P. 99)

交際相手からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 13.2%、男性 11.3%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 24.0%、男性 18.6%、「③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 15.0%、男性 4.4%となっています (図表Ⅲ-1-6-20、図表Ⅲ-1-6-21、図表Ⅲ-1-6-24、図表Ⅲ-1-6-27)。

③ 配偶者間でDVだと思ふ行為

問 15 配偶者間で次の（１）～（１０）のようなことが行われた場合、あなたはこれらが暴力にあたると思いますか。（○は各項目に１つ）（P. 106）

配偶者間でDVだと思ふ行為について、「⑧なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたり、ひきずりまわしたりする」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性 96.5%、男性 93.8%で最も高くなっています。「④実家の親、兄弟・姉妹、友人との付き合いをいやがったり監視したり、外出を制限したりする」が『どんな場合でも暴力に当たると思う』のは女性 70.5%、男性 56.3%で男女での差が見られます（図表Ⅲ-1-6-30、図表Ⅲ-1-6-31、図表Ⅲ-1-6-34、図表Ⅲ-1-6-37、図表Ⅲ-1-6-40、図表Ⅲ-1-6-43、図表Ⅲ-1-6-46、図表Ⅲ-1-6-49、図表Ⅲ-1-6-52、図表Ⅲ-1-6-55、図表Ⅲ-1-6-58）。

④ 配偶者からのDVの経験

問 16 あなたは、過去１年間に配偶者（別居中を含む）から、次の（１）～（４）のようなことをされたことがありますか。ここでの「配偶者」には、元配偶者（離別・死別した相手）も含まれます。（○は各項目に１つ）（P. 127）

配偶者からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは女性 9.6%、男性 11.7%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 19.2%、男性 17.5%、「③生活費をもらえない、お金の使い道を細かく管理するなどの経済的ないやがらせを受けた」ことがあるのは女性 9.8%、男性 5.1%、「④あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは女性 11.5%、男性 2.9%となっています（図表Ⅲ-1-6-61、図表Ⅲ-1-6-62、図表Ⅲ-1-6-65、図表Ⅲ-1-6-68、図表Ⅲ-1-6-70）。

⑤ DVを相談したか

問 17 あなたはそのことをどこ（だれ）かに相談しましたか。（○は１つ）（P. 135）

DVを相談したかについては、「相談した」が女性 16.6%、男性 9.9%、「相談しなかった（できなかった）」が女性 54.0%、男性 56.8%となっています（図表Ⅲ-1-6-73）。

⑥ DVの相談先

問 17-1 あなたはそのことをどこ（だれ）に相談しましたか。（○はいくつでも）（P. 137）

DVの相談先については、女性は「家族・親戚」、「友人・知人」がいずれも 59.3%で最も高く、男性は回答数が８人と少人数でしたが、「友人・知人」が 75.0%で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-6-76）。

⑦ DVを相談しなかった理由

問 17-2 どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）（P. 139）

DVを相談しなかった理由については、女性は「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」がいずれも 35.2%で最も高く、男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が 47.8%で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-6-78）。

⑧ DVの相談推奨先

問 18 もしも、あなたの友人や知人が、配偶者あるいは恋人から暴力を受けているとしたら、あなたはどの窓口相談することをすすめますか。(○はいくつでも) (P. 141)

DVの相談推奨先は、女性は「枚方市配偶者暴力相談支援センター（ひらかたDV相談室）」が62.4%で最も高く、男性は「警察」が66.3%で最も高くなっています（図表Ⅲ-1-6-80）。

⑨ DVについての考え

問 19 配偶者・パートナーや恋人からの暴力（DV）に関して、次のような意見があります。あなたの考えに近いものを選んでください。(○はいくつでも) (P. 143)

DVについての考えについては、男女とも「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」（女性78.8%、男性65.3%）が最も高く、次いで女性は「暴力を受けている人は逃げようと思えば、いつでも逃げ出せるはず」（19.5%）、男性は「暴力をふるわれた人にも、何らかの原因があるので、暴力をふるう人を一方的には責められない」（20.0%）となっています。（図表Ⅲ-1-6-82）。

⑩ セクシャル・ハラスメントの接触経験

問 20 あなたは、最近3年の間に、職場や学校、地域などにおいて、次のようなことをされた、もしくは見聞きしたことがありますか。(○はいくつでも) (P. 147)

セクシャル・ハラスメントの接触経験については、女性61.3%、男性58.1%が「されたこと、見聞きしたことはない」と回答しています。接触経験のある人の中では、男女とも「結婚しないの？」や「子どもはまだ？」など、プライベートなことをたびたび聞く（女性16.2%、男性15.3%）が最も高く、次いで「性的な冗談や質問、卑猥な言葉をかける」（女性9.1%、男性12.5%）となっています。（図表Ⅲ-1-6-85）。

⑪ 性的マイノリティの認知度

問 21 あなたは性的マイノリティ（LGBT等）（※）という言葉を知っていますか。(○は1つ) (P. 150)

性的マイノリティの認知度について、『意味を知っている』は女性72.6%、男性69.4%となっています。性年代別で見ると『意味を知っている』の割合が最も低いのは、70歳以上の男性(38.5%)となっています（図表Ⅲ-1-6-88）。

⑫ 周りに性的マイノリティの人がいるか

問 22 あなたを含め、あなたの周りに性的マイノリティ（LGBT等）の方はいますか。(○は1つ) (P. 151)

あなたの周りに性的マイノリティの人がいるかについては、『いる』が女性16.4%、男性12.2%となっています。性年代別で見ると20歳代は女性36.4%、男性30.0%、70歳以上は女性1.4%、男性1.9%で世代での差が大きく見られます（図表Ⅲ-1-6-90）。

⑬ 性的マイノリティ支援施策の認知度

問 23 枚方市が行っているLGBT等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知っているものをお答え下さい。(○はいくつでも) (P. 152)

性的マイノリティ支援施策の認知度については、「パートナーシップ宣誓制度」が女性 12.3%、男性 5.9%となっていますが、「1 つも知らない」が女性 77.3%、男性 84.4%と最も高くなっています（図表Ⅲ-1-6-92）。

2 小学生から大学生調査

（１）回答者の属性

① 性別 <小学生・中学生・高校生・大学生>

あなたの性別は。（○は１つ）

<小学生問 9・中学生問 11・高校生問 16・大学生問 16>（P. 166）

小学生では「男子」が 52.1%で最も高く、次いで「女子」が 42.7%、「答えない」が 3.0%と続いており、中学生では「女子」が 46.7%で最も高く、次いで「男子」が 46.5%、「答えない」が 4.5%と続いており、高校生では「女子」が 48.8%で最も高く、次いで「男子」が 43.0%、「答えない」が 3.3%と続いており、大学生では「女性」が 57.6%で最も高く、次いで「男性」が 37.6%、「答えない」が 2.3%と続いています（図表Ⅲ-2-1-1）。

（２）家庭生活について

① 家で行っている家事 <小学生・中学生・高校生>

あなたは、家でどのようなことをしていますか。（○はいくつでも）

<小学生問 1・中学生問 1・高校生問 1>（P. 167）

家で行っている家事について男女別でみると、最も割合が高いのは、小学生女子は「食事の後片付け」（53.8%）、小学生男子は「ふろ掃除」（46.7%）、中学生女子は「自分の部屋の掃除」（64.8%）、中学生男子は「食事の後片付け」（45.6%）、高校生は女子・男子いずれも「自分の部屋の掃除」（女子 63.0%、男子 53.6%）となっています（図表Ⅲ-2-2-1、図表Ⅲ-2-2-2）。

② 主に家事や子育てを行っている人 <小学生・中学生・高校生>

家で、主に家事（料理・掃除・洗濯など）や子育てをしているのはだれですか。（○はいくつでも）

<小学生問 2・中学生問 2・高校生問 2>（P. 169）

主に家事や子育てを行っている人について、全体では、いずれの年代も「母」の割合が最も高く（小学生 98.0%、中学生 95.7%、高校生 94.4%）、次いで「父」（小学生 45.3%、中学生 27.6%、高校生 23.8%）の割合が高くなっています（図表Ⅲ-2-2-3、図表Ⅲ-2-2-4）。

（３）性別による役割分担の考えについて

① 家事はだれがするのが一番よいと思うか <小学生・中学生・高校生・大学生>

あなたは、料理・掃除・洗濯などの家事は、だれがするのが一番よいと思いますか。（○は１つ）

<小学生問 3・中学生問 3・高校生問 3・大学生問 1>（P. 171）

家事はだれがするのが一番よいと思うかについて男女別でみると、いずれの年代でも「男の人と女の人が協力してするのがよい」が最も割合が高くなっていますが、小学生は女子（73.1%）が男子（57.5%）よりも 15.6 ポイント高く、中学生は女子（80.2%）が男子（56.6%）よりも 23.6 ポイント高く、高校生は女子（81.9%）が男子（68.3%）よりも 13.6 ポイント高く、大学

生は女性（92.1%）が男性（81.9%）よりも10.2ポイント高くなっています（図表Ⅲ-2-3-1、図表Ⅲ-2-3-2）。

② 子育てはだれがするのが一番よいと思うか <小学生・中学生・高校生・大学生>

あなたは、子どもが小さいときの子育ては、だれがするのが一番よいと思いますか。（○は1つ）
<小学生問4・中学生問4・高校生問4・大学生問2>（P.174）

子育てはだれがするのが一番よいと思うかについて男女別でみると、いずれの年代でも「男の人と女の人が協力してするのがよい」が最も割合が高くなっていますが、小学生は女子（73.6%）が男子（60.8%）よりも12.8ポイント高く、中学生は女子（78.4%）が男子（62.8%）よりも15.6ポイント高く、高校生は女子（85.8%）が男子（73.2%）よりも12.6ポイント高く、大学生は女性（90.9%）が男性（81.9%）よりも9.0ポイント高くなっています（図表Ⅲ-2-3-3、図表Ⅲ-2-3-4）。

③ お金を稼ぐ仕事はだれがするのが一番よいと思うか <小学生・中学生・高校生・大学生>

あなたは、お金を稼ぐ仕事を、だれがするのが一番よいと思いますか。（○は1つ）
<小学生問5・中学生問5・高校生問5・大学生問3>（P.177）

お金を稼ぐ仕事はだれがするのが一番よいと思うかについて男女別でみると、いずれの年代でも「男の人と女の人が協力してするのがよい」が最も割合が高くなっていますが、小学生は女子（63.5%）が男子（43.8%）よりも19.7ポイント高く、中学生は女子（66.1%）が男子（45.1%）よりも21.0ポイント高く、高校生は女子（74.4%）が男子（51.3%）よりも20.1ポイント高く、大学生は女性（78.3%）が男性（62.7%）よりも15.6ポイント高くなっています（図表Ⅲ-2-3-5、図表Ⅲ-2-3-6）。

④ 勉強と家事について <小学生・中学生>

勉強と家事について、家族はどのような考えを持っているとあなたは思いますか。また、自分はどう考えているかそれぞれ教えてください。<小学生問6・中学生問6>（P.180）

勉強と家事についての家族の考えについて男女別でみると、最も割合の高いのは、いずれの年代も「勉強も料理や掃除などの家事も両方するのがよい」（小学生女子65.0%、小学生男子53.8%、中学生女子58.6%、中学生男子48.7%）となっています。

また、勉強と家事についての自分の考えについて男女別でみると、最も割合の高いのは、いずれの年代も「勉強も料理や掃除などの家事も両方するのがよい」（小学生女子70.1%、小学生男子55.8%、中学生女子62.1%、中学生男子44.7%）となっています（図表Ⅲ-2-3-7）。

⑤ 自身が望む夫婦の役割分担 <大学生>

あなた自身が望む夫婦の役割分担として最も当てはまるものはどれですか。（○は1つ）
<大学生問4>（P.181）

自身が望む夫婦の役割分担について男女別でみると、女性・男性いずれも「結婚後、子どもが生まれても妻は仕事をやめないで、仕事と家事と子育てを夫婦で協力して行う」（大学生女性53.5%、大学生男性44.0%）が最も高くなっています（図表Ⅲ-2-3-8）。

⑥ 「男は〇〇」「女は〇〇」と言われた経験 <小学生・中学生・高校生・大学生>

あなたは、たとえば「男の子は強く」や「女の子は優しく」など、「男は〇〇」、「女は〇〇」のように言われたことがありますか。(〇は1つ)

<小学生問 7・中学生問 7・高校生問 6・大学生問 5> (P. 183)

「男は〇〇」「女は〇〇」と言われた経験について男女別でみると、『言われる(言われた)』(「よく言われる(言われた)」と「ときどき言われる(言われた)」の合計)は、小学生女子が57.9%、小学生男子が56.3%、中学生女子が64.7%、中学生男子が47.8%、高校生女子が66.2%、高校生男子が58.9%、大学生女性が77.6%、大学生男性が66.3%となっています(図表Ⅲ-2-3-9、図表Ⅲ-2-3-10)。

⑦ 「男は〇〇」「女は〇〇」と言われた理由 <小学生・中学生・高校生・大学生>

どんなことについて言われたことがありますか。(〇はいくつでも)

<小学生問 7-1・中学生問 7-1・高校生問 6-1・大学生問 5-1> (P. 185)

「男は〇〇」「女は〇〇」と言われた理由について男女別でみると、女子(女性)の全ての年代で「言葉づかい」(小学生女子62.3%、中学生女子74.8%、高校生女子69.6%、大学生女性77.7%)の割合が最も高く、小学生男子は「言葉づかい」(48.1%)、中学生男子は「泣いたとき」(37.0%)、高校生男子、大学生男性はいずれも「性格」(高校生男子42.4%、大学生男性49.1%)の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-2-3-11、図表Ⅲ-2-3-12)。

⑧ 「男は〇〇」「女は〇〇」とだれに言われたか <小学生・中学生・高校生・大学生>

それはだれに言われましたか。(〇はいくつでも)

<小学生問 7-2・中学生問 7-2・高校生問 6-2・大学生問 5-2> (P. 188)

「男は〇〇」「女は〇〇」とだれに言われたかについて、全ての年代で「母」(小学生女子85.1%、小学生男子77.0%、中学生女子91.8%、中学生男子70.4%、高校生女子76.8%、高校生男子50.0%、大学生女性75.6%、大学生男性60.0%)の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-2-3-13、図表Ⅲ-2-3-14)。

⑨ 「男は〇〇」「女は〇〇」と言われたときの気持ち <小学生・中学生・高校生・大学生>

あなたは言われたとき、どのような気持ちになりましたか。(〇は1つ)

<小学生問 7-3・中学生問 7-3・高校生問 6-3・大学生問 5-3> (P. 190)

「男は〇〇」「女は〇〇」と言われたときの気持ちについて男女別でみると、小学生では「その通りだと思った」(小学生女子46.5%、小学生男子47.4%)の割合が最も高く、中学生、高校生、大学生では「何とも思わなかった」(中学生女子40.8%、中学生男子47.2%、高校生女子50.6%、高校生男子57.6%、大学生女性51.8%、大学生男性53.6%)の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-2-3-15、図表Ⅲ-2-3-16)。

⑩ 男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うこと <大学生>

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも) <大学生問 6> (P. 193)

男女がともに働きやすい社会の環境をつくるために必要だと思うことについて男女別でみる

と、女性・男性いずれも「育児休業や介護休業をだれもが利用しやすくする」(大学生女性 59.8%、大学生男性 53.6%) の割合が最も高くなっています(図表Ⅲ-2-3-18)。

(4) 暴力・人権について

① 男女交際の関係についてどう思うか <中学生・高校生>

あなたは、男女交際について次の(1)～(7)のような関係をどのように思いますか。(○はそれぞれ1つ) <中学生問8・高校生問7> (P. 195)

男女交際の関係についてどう思うかについて中学生では、「へんだと思う」と回答した人の割合は、「⑥相手がいやがっているのに無理やりキスしたり、体をさわったりする」が93.8%で最も高く、次いで「⑦別れ話をしてもしつこくつきまとったり、いやな内容のメッセージを送ったりする」が93.2%、「④友人とのつきあいをいやがったり、禁止したりする」が90.7%と続いており、男女別でみると、「①彼氏(彼女)以外の異性と話すとは不機嫌になる」以外の項目で女子の方が男子より高くなっています。

また、高校生では、「へんだと思う」と回答した人の割合は、「⑦別れ話をしてもしつこくつきまとったり、いやな内容のメッセージを送ったりする」が94.6%で最も高く、次いで「⑥相手がいやがっているのに無理やりキスしたり、体をさわったりする」が94.2%、「②ラインなどのメッセージを勝手に見たり、アドレスを勝手に消したりする」が91.4%と続いており、男女別でみると、「①ラインなどのメッセージの返信が遅いといつも怒る」以外の項目で女子の方が男子より高くなっています。(図表Ⅲ-2-4-1～図表Ⅲ-2-4-10)。

② 恋人同士の間でのDVだと思ふ行為 <大学生>

恋人同士の間で次の(1)～(6)のようなことが行われた場合、あなたは、これらが暴力にあたると思いますか。(○は各項目に1つ) <大学生問7> (P. 204)

恋人同士の間でDVだと思ふ行為について、「⑥相手の合意を得ないで、一方的に性行為を行う」が『どんな場合でも暴力に当たる』と思うのは女性93.3%、男性82.5%で最も高くなっています。「⑤避妊に協力しない」が『どんな場合でも暴力に当たると思う』のは女性84.6%、男性66.9%で男女での差が見られます(図表Ⅲ-2-4-11～図表Ⅲ-2-4-17)。

③ デートDVの認知度 <中学生・高校生・大学生>

恋人同士の間で起きる暴力のことを「デートDV」といいます。なぐる、けるという体への暴力だけではなく、言葉や態度で怖がらせたり、行動を制限したりすることもデートDVです。あなたは、「デートDV」という言葉を知っていますか。(○は1つ)
<中学生問9・高校生問8・大学生問8> (P. 208)

デートDVの認知度について全体でみると、「知っている」と回答したのは、中学生30.2%、高校生55.1%、大学生41.7%となっています(図表Ⅲ-2-4-18、図表Ⅲ-2-4-19)。

④ 交際相手からのDVの経験 <高校生・大学生>

あなたは、これまでに交際相手から次の(1)～(3)のようなことをされたことがありますか。(○は各項目に1つ) <高校生問9・大学生問9> (P. 210)

交際相手からのDVの経験について、「①なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ば

したりするなどの身体に対する暴行を受けた」ことがあるのは高校生女子 0.0%、男子 3.3%、大学生女性 5.6%、男性 5.3%、「②人格を否定するような暴言、無視する、なぐるふりをして脅すなどの精神的ないやがらせを受けた」ことがあるのは高校生女子 4.5%、男子 6.7%、大学生女性 11.3%、男性 9.5%、「③あなたがいやがっているのに性的な行為を強要された」ことがあるのは高校生女子 6.4%、男子 2.5%、大学生女性 11.8%、男性 4.3%となっています（図表Ⅲ-2-4-20～図表Ⅲ-2-4-23）。

⑤ DVを相談したか <高校生・大学生>

あなたはそのことをどこ（だれ）かに相談しましたか。（○は1つ）

<高校生問 10・大学生問 10>（P. 214）

DVを相談したかについて男女別でみると、「相談した」と回答したのは、高校生、大学生いずれも女子（女性）の割合が男子（男性）よりも高く、高校生女子が 57.1%、高校生男子が 10.0%、大学生女性が 40.6%、大学生男性が 16.7%となっています（図表Ⅲ-2-4-24）。

⑥ DVの相談先 <大学生>

あなたはそのことをどこ（だれ）に相談しましたか。（○はいくつでも）

<大学生問 10-1>（P. 215）

DVの相談先について全体でみると、「友人・知人」が 93.3%で最も高くなっています（図表Ⅲ-2-4-25）。

⑦ DVを相談しなかった理由 <大学生>

どこ（だれ）にも相談しなかった、できなかった理由は何ですか。（○はあてはまるものすべて）

<高校生問 10-1><大学生問 10-2>（P. 216）

DVを相談しなかった理由について男女別でみると、女性では「相談するほどのことではないと思ったから」が 57.9%で最も高く、男性では「自分さえ我慢すれば、何とかやっていけると思ったから」「相談するほどのことではないと思ったから」がいずれも 33.3%で最も高くなっています（図表Ⅲ-2-4-26）。

⑧ DVの相談推奨先 <大学生>

もしも、あなたの友人や知人が、夫または妻、あるいは恋人から暴力を受けているとしたら、あなたはどの窓口で相談することをすすめますか。（○はいくつでも）<大学生問 11>（P. 218）

DVの相談推奨先について全体では、「警察」が 58.3%で最も高く、男女別でみると、女性・男性いずれも「警察」（大学生女性 55.1%、大学生男性 63.9%）の割合が最も高く、女性では次いで「大阪府女性相談センター」（38.6%）の割合が高く、男性では次いで「枚方市配偶者暴力相談支援センター「ひらかたDV相談室」（27.1%）の割合が高くなっています（図表Ⅲ-2-4-27）。

⑨ DVについての考え <高校生・大学生>

配偶者・パートナー、あるいは恋人からの暴力（DV）に関して、次のような意見があります。あなたの考えに近いものを選んでください。（○はいくつでも）

<高校生問 11・大学生問 12>（P. 219）

DVについての考えについて男女別でみると、高校生、大学生いずれも「どんな理由があろうと暴力をふるう人が悪い」（高校生女子 78.0%、高校生男子 55.8%、大学生女性 67.7%、大学生男性 60.8%）の割合が最も高くなっています（図表Ⅲ-2-4-28、図表Ⅲ-2-4-29）。

⑩ 性的マイノリティの認知度 <高校生・大学生>

あなたは性的マイノリティ（LGBT等）という言葉を知っていますか。（○は1つ）

<高校生問 12・大学生問 13>（P. 222）

性的マイノリティの認知度について全体でみると、「意味を知っている」と回答したのは、高校生が 63.3%、大学生が 71.0%で、男女別でみると、高校生は女子（71.3%）が男子（59.8%）よりも 11.5 ポイント高く、大学生は女性（81.1%）が男性（59.6%）よりも 21.5 ポイント高くなっています（図表Ⅲ-2-4-30）。

⑪ 周りに性的マイノリティの人がいるか <高校生・大学生>

あなたを含め、あなたの周りに性的マイノリティ（LGBT等）の方はいますか。（○は1つ）

<高校生問 13・大学生問 14>（P. 223）

周りに性的マイノリティの人がいるかについて全体でみると、「いる」と回答したのは、高校生が 13.4%、大学生が 28.6%で、男女別でみると、高校生は女子（15.7%）が男子（9.4%）よりも 6.3 ポイント高く、大学生は女性（35.8%）が男性（17.5%）よりも 18.3 ポイント高くなっています（図表Ⅲ-2-4-31）。

⑫ 性的マイノリティ支援施策の認知度 <高校生・大学生>

枚方市が行っているLGBT等の性的マイノリティの方への支援施策について、あなたが知っているものをお答え下さい。（○はいくつでも）<高校生問 14・大学生問 15>（P. 224）

性的マイノリティ支援施策の認知度について全体でみると、高校生、大学生いずれも「1つも知らない」（高校生 84.6%、大学生 84.6%）の割合が最も高くなっています（図表Ⅲ-2-4-32）。

⑬ 生まれ変わるとしたら男女のどちらがよいか <小学生・中学生・高校生・大学生>

あなたがもし、生まれ変わるとしたら、男と女のどちらがよいですか。（○は1つ）

<小学生問 10・中学生問 12・高校生問 17・大学生問 17>（P. 225）

生まれ変わるとしたら男女のどちらがよいかについて、『男子（男性）派（『ぜったい男子（男性）』と『どちらかといえば男子（男性）』の合計）』と『女子（女性）派（『ぜったい女子（女性）』と『どちらかといえば女子（女性）』の合計）』を比べた場合、いずれの年代でも男子（男性）は「男子（男性）派」が多く（小（男子派 68.0%、女子派 6.3%）、中（男子派 34.1%、女子派 14.1%）、高（男子派 45.1%、女子派 9.4%）、大（男性派 50.0%、女性派 8.4%））、女子（女性）は中学生・高校生で『女子（女性）派』より『男子（男性）派』が多く（中（男子派 33.0%、女子派 30.4%）、高（男子派 30.3%、女子派 25.2%））、小学生・大学生で『男子（男性）派』より『女子（女性）派』が多く（小（男子派 20.8%、女子派 47.2%）、大（男性派 26.8%、女性派 33.1%））なっています（図表Ⅲ-2-4-33）。